



町健康づくりキャラクター
ツージーちゃんの

健康情報
コーナー

知っていますか？人の命を救う ボランティア「献血」のこと



献血ができる年齢と体重の基準

▼年齢 69 歳まで

▼体重 50 kg以上

※ 65 歳以上は、60 代で献血経験がある人に限ります。

手術などで輸血が必要になった時に使われる血液製剤は、採血後3週間しか有効期限がありません。そのため、日々必要な人数分の献血をお願いしなくてはなりません。

近年、献血ができる人の条件がやや緩和され、薬の種類などにより、献血が可能な場合も多くなります。「薬を飲んでいるからダメだ…」と思わず、年齢と体重の基準を満たしている人は、ぜひ一度献血の窓口にお越しください。

いつ、だれが輸血を必要とする状態になるのか分かりません。あなたやあなたの家族が助けを求めらる立場になるときがあるかもしれません。自分のため、家族のため、誰かのために、献血に協力してみませんか。

命を救えるボランティア。日野町でも献血を行います。

400ml 献血にご協力を

現在、県内でも血液不足が深刻な問題となっています。1人でも多くの協力をお待ちしています。

<期日> 10月16日(水)

<会場と受付時間>

- ・午前9時～午前10時：日野振興センター
- ・午前11時～正午：黒坂警察署
- ・午後2時～午後4時30分：日野町役場

※輸血を受ける人への副作用を軽減するため、400ml献血をお願いしています。当日は、献血カードまたは本人確認ができるもの(免許証など)を持参ください。

<問合せ> 町健康福祉センター(電話 72-1852)

あなたの献血で 救える命があります。

無駄な命なんてない。
殺処分される命を救いませんか。

町では、飼い主のいない猫の増加を抑え、地域の生活環境の保全や、動物愛護の観点から殺処分される命を減らすため、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術への助成金制度を設けています。

<飼い主のいない猫の不妊・去勢手術
助成制度>

助成額 1頭当たり、手術費用の1/2
(上限1万円)

問合せ 町健康福祉センター
(電話 72-1852)



飼ってからでなく、飼う前にも、これから10年以上の動物との生活を考えてみましょう。

最後まで愛情を持って、健康でペットと長く幸せに暮らすため、ペットが歳をとったときのことを考えてみましょう。また、飼い主自身が高齢になって病気や入院など世話ができなくなったときのことも想定し、心構えと準備をしておくことが重要です。

犬、猫などを飼うとき、本当に飼い主の責任を果たすことができるか、きちんと考えていますか？

令和元年度動物愛護週間テーマは、「共に生きる〜シニアペットとシルバー世代〜」です。

動物を飼うことは、動物の命を預かることです。飼い主は、動物が健康で快適に暮らせるようにするとともに、社会や近隣に迷惑をおよぼさないようにする責任があります。

9月20日～26日は、「動物愛護週間」です。

共に生きる 〜シニアペットとシルバー世代〜



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

動脈瘤の破裂が 引き起こす恐ろしい病気

「突然バットで殴られたような頭痛」。これがクモ膜下出血の症状です。

クモ膜下出血は極めて重大な病気で発症した患者さんの3分の1は死亡し、3分の1は重度の後遺症を残し、残りの3分の1が社会復帰できるといわれています。

このクモ膜下出血の原因の80%以上は脳動脈瘤の破裂です。つまり、脳動脈瘤を早く見つけて治療をすれば、クモ膜下出血を防ぐことができます。では、この脳動脈瘤はどのようにして見つけければ

良いでしょうか。

実はとても簡単です。頭部MRI検査で見つけることができます。MRIの機械の中で20分ほど寝ているだけでOKです。点滴もいりませんし、呼吸を止める必要もありません。

頭部MRIでは3ミリのうしろからの脳動脈瘤が見つけられます。できている場所によって多少変わりますが、7ミリを超えると年に1%の確率で破裂します。つまり、クモ膜下出血が起こります。10ミリ以上では年率5%の破裂率です。

私は何の症状もないから大丈夫と思つてはいけません。脳動脈瘤のほとんどは破裂するまで症状は出ません。症状のないのが普通なのです。

高齢者の病気とは言い切れない。こんな人は注意を

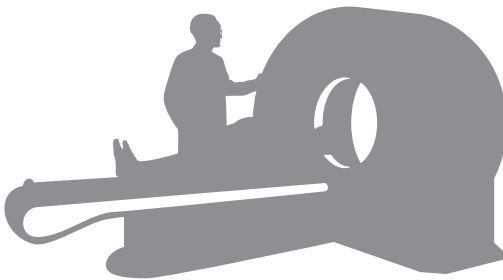
では、どのような人に行きやすいのでしょうか。高血圧、動脈硬化、喫煙者、多飲酒者に起こりやすいことが分かっています。また、遺伝的な要因もあることから、血縁にクモ膜下出血や脳動脈瘤

の人がいればさらに注意が必要です。

年齢では50歳を中心に40〜60歳代に好発し、女性性は男性の2倍の頻度です。必ずしも高齢者の病気ではありません。脳動脈瘤があることを知らずにいることは、時限爆弾を頭に入れておくようなものです。いつ爆発するか分かりません。しかし、早く見つければ手術（クリッピング術）や血管からのコイル塞栓術などで治療が可能です。小さいものであれば、血圧のコントロールで経過を見ることが可能です。

MRI・脳ドックで簡単に確認。適切な治療を

この病気は放っておけ



ば命に関わる重大な結果になります。簡単な検査で見つけて治療ができるため、検査を受ける価値が非常に高い疾患です。

「血縁に脳動脈瘤患者がいる」「高血圧がある」「動脈硬化がある」「たばこを吸っていた」「お酒をたくさん飲む」など、一つでもあてはまれば頭部MRIを受けましょう。日野病院では脳ドックで受けることができますし、通院患者さんは主治医と相談して検査をしてもらって下さい。

あなたの頭の中に時限爆弾があるかどうか、あればいつ爆発しそうかわかりません。適切に治療してもらって下さい。

